

伏見城跡（城下町）発掘調査現地説明会資料

平成 18年 3月 11日（土）

調査期間：2005年 6月 3日～2006年 3月 31日（予定）

調査面積：約 3,870㎡（1区：約 1,910㎡、2区：約 1,960㎡）

調査所在地：京都市伏見区竹中町

調査主体：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

調査の経過

今回の発掘調査は、伏見区総合庁舎整備事業に先だっているものです。調査は西側の調査区（1区）を終了し、現在は東側の調査区（2区）の調査を行っています。1区は第1面（江戸時代中期から後期）、第2面（桃山時代から江戸時代前期）、第3面（室町時代）に分けて調査しました。2区は、昔の地面が1区よりも高い場所にあつたため多くの部分が上を削られ、各時代の遺跡がまとまってでてきています。

調査地は、桃山時代（今から約 400年前）に豊臣秀吉が造った伏見城城下町の西部にあたります。城下町は秀吉没後は徳川氏により整備が続けられました。伏見の町は、元和 9年（1623）に伏見城が廃城になってからも、交通の要所として、また、酒造業をはじめとする商工業の町として発展してきています。

室町時代の遺跡（今から約 400～500年前）図 4、写真 1～3

堀・溝・建物の柱穴・井戸などが見つかりました。堀は1区東部にあります。北北東から南南西方向に延び、城下町の道路の方向とは異なっています。堀の西側には溝と多数の柱穴や井戸があり、井戸は深さが 4 m もありました。これらは集落の一部とみられます。出土した遺物には、その当時日常に使われていた土器や陶磁器などがあります。

桃山時代の遺跡（今から約 400年前）図 3、写真 4・5

城下町が造られ、発展した頃になります。段差・堀・建物の柱穴・井戸・ゴミを捨てた穴などが見つかりました。段差は2区西端にあります。城下町を造営するときに東から西へ傾斜する丘陵を削って平坦面を造り出した痕跡です。堀は水が溜まったあとがないことから空堀であったことがわかります。建物の柱穴は1区西部に多いので道路に面して建物があったと考えています。2区西部に並ぶ大きな穴からは漆器椀・漆器皿・箸・杓子・刷毛・箒・桶・下駄など多種多様な木製品がまとまって出土しています。また、城下町であったことを象徴する金箔瓦や茶陶も少量ながら出土しています。

江戸時代の遺跡（今から約 150～350年前）図 3、写真 6～8

溝・井戸・竈・ゴミを捨てた穴・墓地などが見つかりました。溝は敷地境界や建物の区画であったと考えています。竈は大型で特別な用途が推定できます。近くから埴塙が出土しているので金属加工が行われていた可能性があります。墓地はお参りのための通路が整備されていたようですがわかります。埋葬方法は土葬が主で、箱棺・桶棺・甕棺などを用いています。遺物は土器・陶磁器や伏見人形・瓦などの焼物、漆器椀などの木製品、硯・砥石などの石製品、キセル・銅銭などの金属製品が出土しています。珍しい遺物には眼鏡・仏像を納めた厨子・羽子板・トウモロコシなどがあります。

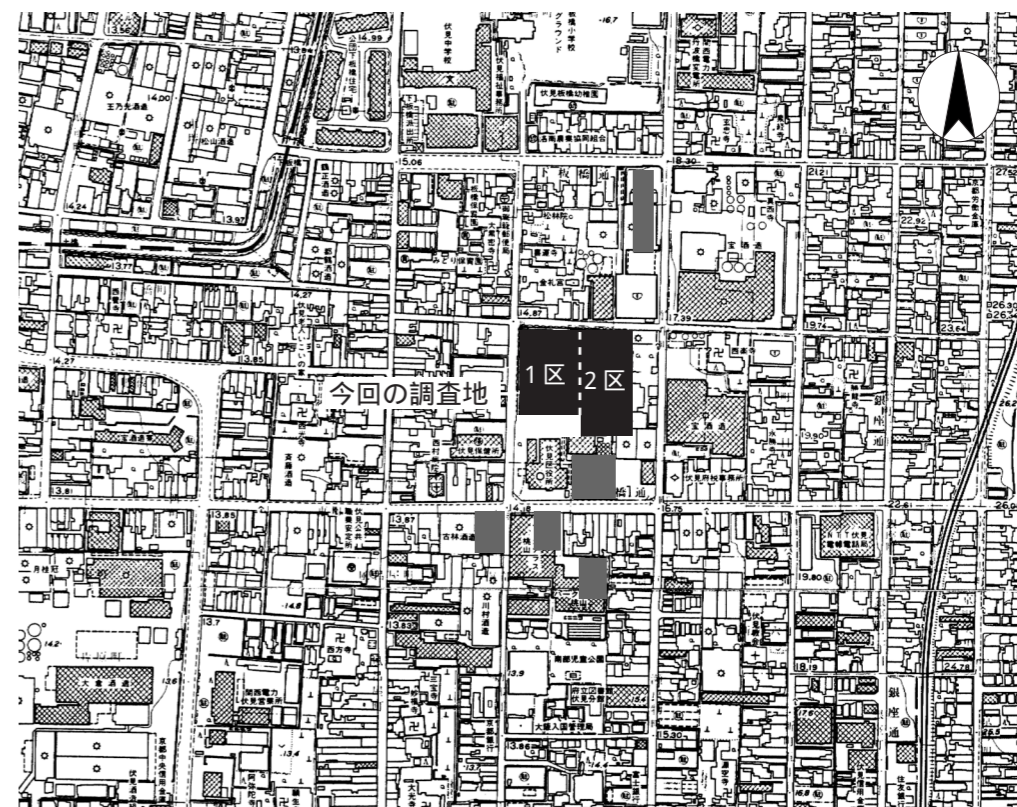


図 1 調査位置図（1/5,000）

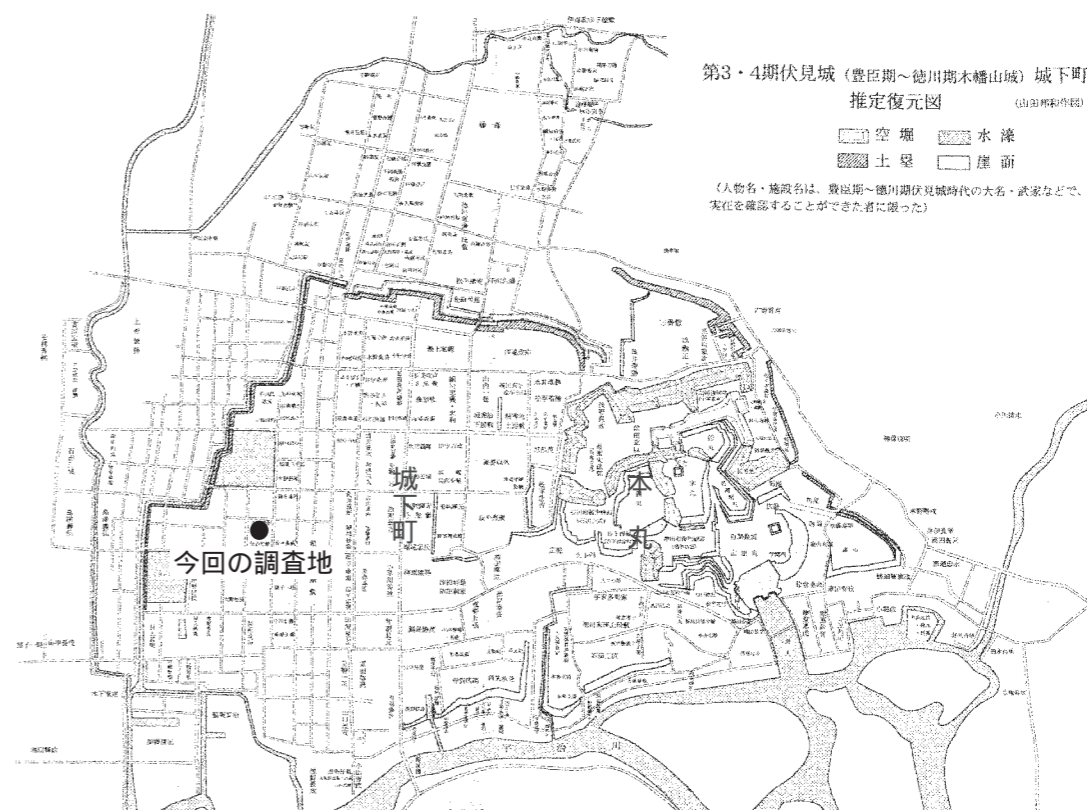


図 2 伏見城および城下町推定復元図（山田邦和氏作成）と調査位置



Y-21 560

Y-21 550

Y-21 540

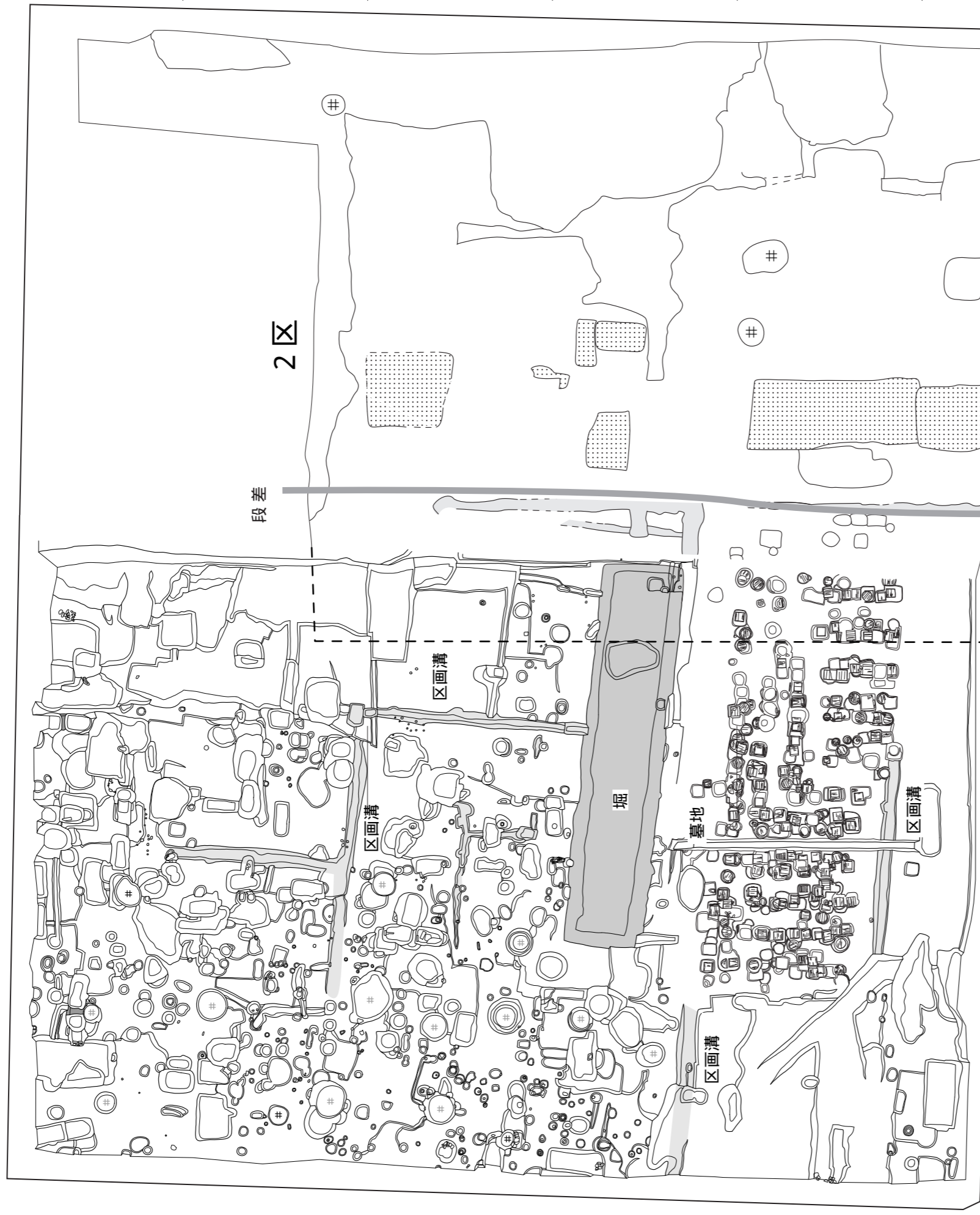
Y-21 530

Y-21 520

Y-21 510

Y-21 500

1区



区画溝 堀 # 井戸

1区第2面平面図(桃山時代から江戸時代)



X-118,330

X-118,340

X-118,350

X-118,360

X-118,370

X-118,380

X-118,390

2区

段差

区画溝

堀

墓地

区画溝

土器溜

段差

溝

土器溜

木製品が出土した穴

土器溜

井戸

図3 遺構平面図

1区 室町時代

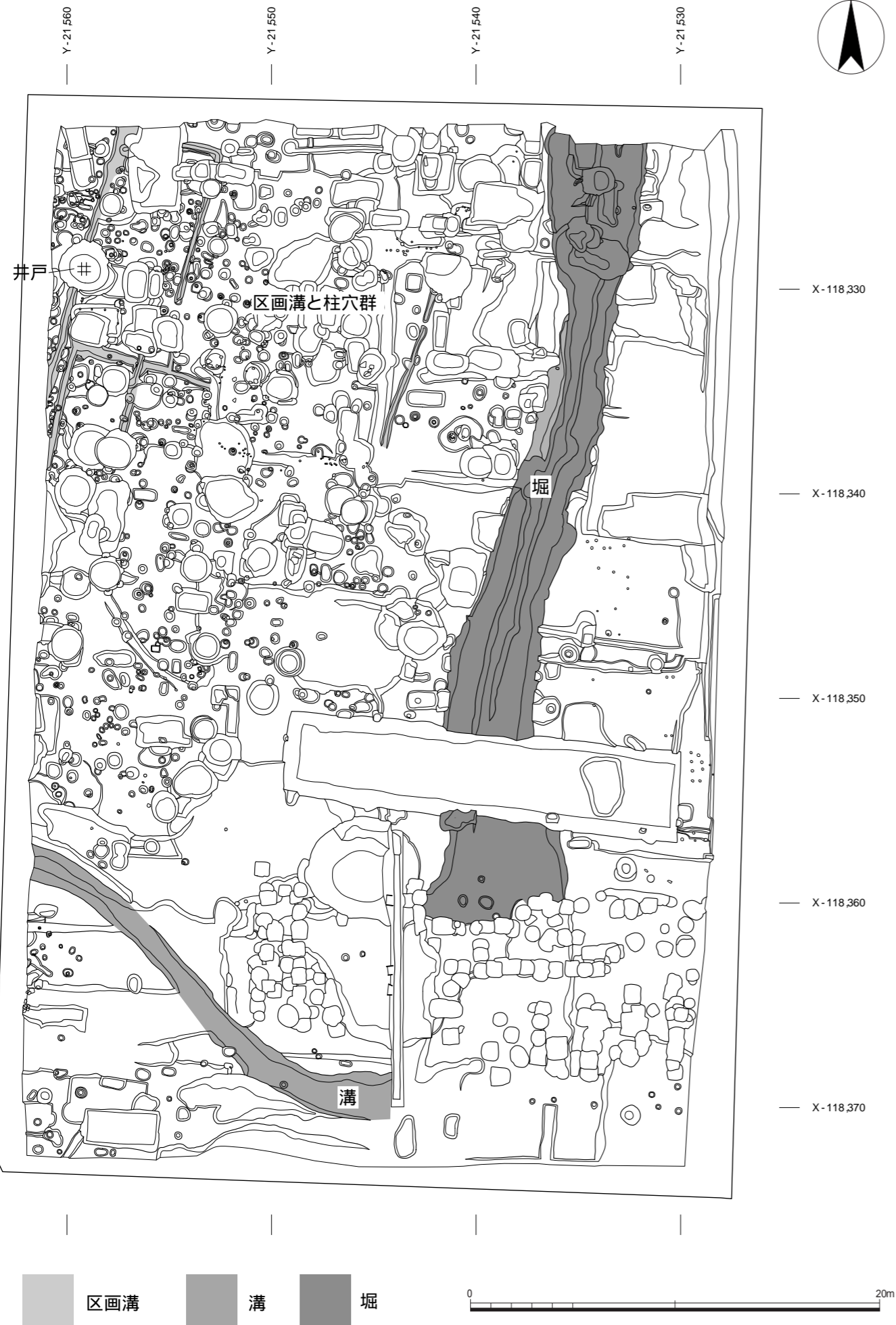


図4 1区第3面平面図(室町時代)



写真1 1区 第3面全景(南から)



写真2 1区 柱穴と溝(北から)



写真3 1区 井戸断ち割り状況(東から)

1・2 区 桃山時代

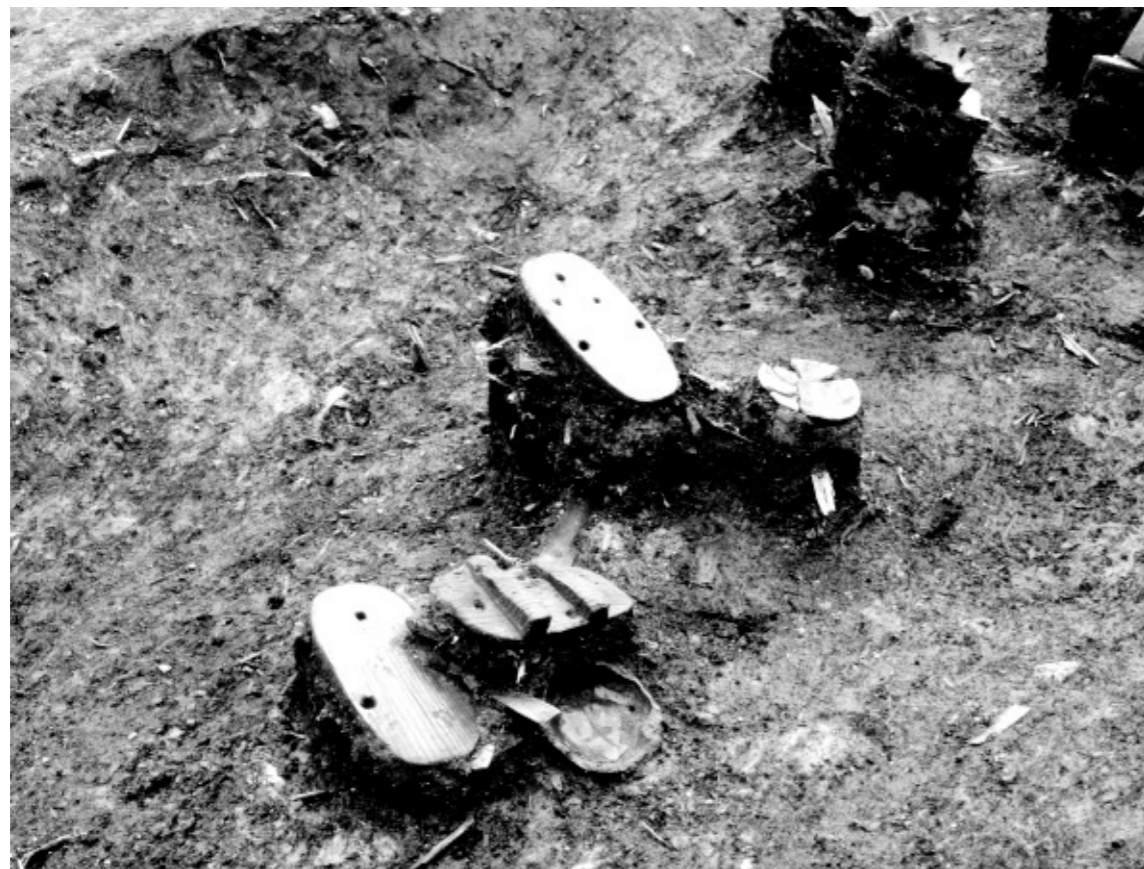


写真4 2区 木製品出土状況(北から)

1区 江戸時代



写真6 1区 第2面全景(北から)



写真5 1区 堀(東から)



写真7 1区 区画の溝(北から)

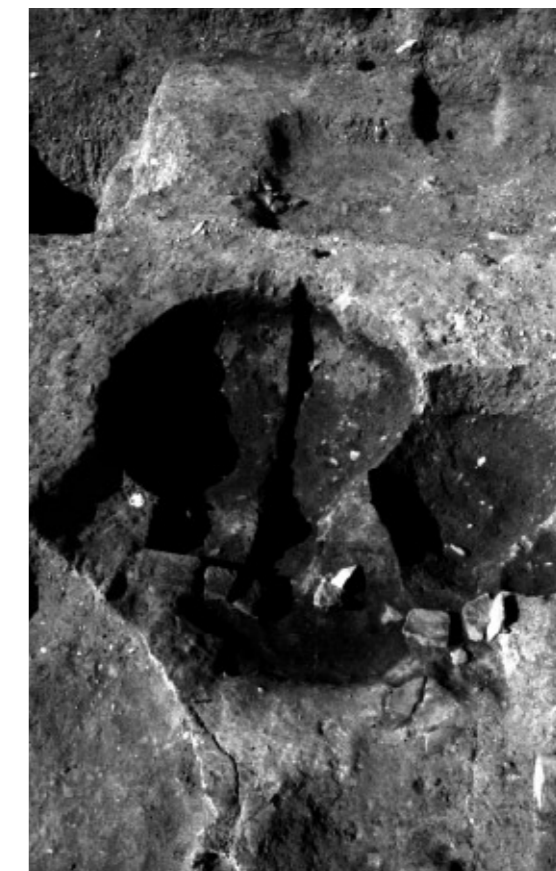


写真8 1区 竈(南から)